

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4111110930		
法人名	医療法人 聖母会 古賀内科		
事業所名	グループホーム 次郎ん家		
所在地	神崎市千代田町境原282-2		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医院併設のグループホームの為、医療連携を図り、ターミナルケアを実施している。日常の小さな変化も、主治医へ報告・指示を受け、健康維持に務めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>神崎市を通る主要道路から少し入った静かな環境に佇むホームは、平成15年に設立し、経験豊富な職員が多く在籍しており、安定した運営がなされている。敷地内に運営母体の法人である内科医院があるため、医療面での支援が手厚く、看取りに対応しているため、終末期まで安心して生活できるホームである。平屋建ての2ユニットで、建物内も開放的で清潔に保たれており、桜が植えられた玄関前の芝生でお花見を行うこともある。屋内は雑音もなく穏やかで、入居者にとって居心地良く過ごせるよう配慮されている。面会制限がある中でも、家族にインターネットで入居者の写真が見られるよう工夫する等、あらゆる機会を通じて入居者と家族の絆が途絶えないよう努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		Aユニット	Bユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を読み上げ、理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	理念は事務所に掲示し、朝礼時に職員で唱和している。また、ヒヤリハットの報告時等に理念に基づいたケアの振り返りを行う等、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常、地域の行事に参加させて頂いているが、日常的な交流はない。	コロナ禍のため地域行事は中止となったが、感染状況が落ち着いた際は、地域行事への参加を再開し、地域住民と交流する機会を増やす予定としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで地域と交流がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで開催できず。書面で報告している。	対面での会議開催時は、市の担当者や区長、家族等が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、サービス向上に努めている。感染状況によっては、書面で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談はその都度行っている。	日頃から相互に情報交換し、意思疎通ができており、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強会を行い、理解を深めている。センサーマット使用時は、日々の話し合いを行い、外せないか検討している。	身体拘束についてマニュアルを作成し、ホームで行う月1回の勉強会で言葉による行動抑制や日中の開錠を含め身体拘束をしないケアの取り組みに努めている。玄関のドアが重いため、入居者が外へ出たい時には職員が付添い外へ出る事ができるようドアの開閉をサポートしている。	入居者の安全を確保しながら短時間から開錠する取組みへの検討に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行い、理解を深めている。対応が難しい方は、スタッフ間で話し合いを行い、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネが行っており、他スタッフが理解しているか不明。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、十分な時間をかけ契約している。その場で疑問などには答えるようにしている。納得されてから、同意、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス時等に意見を聞いている。また、ホーム長・主任は専用の携帯を持参しており、何かあれば連絡が取れる体制をとっている。	家族とは、運営推進会議や面会、電話やメール等、あらゆる機会を通じ意見や要望を聞くよう努めている。入居者の意見は、日頃の会話から聞き取っている。得られた意見は、組織的に対応し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議・全体会議で意見を募っている。出た意見は、検討しすぐできるものは早々に対応している。	日頃より、職員が意見を述べやすい雰囲気づくりがなされている。年2回、管理者は職員と個人面談を実施し、職員の意見を運営に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの仕組みを構築し、個々の努力や実績、能力や勤務状況に応じて昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員にはマンツーマンで付き指導をしている。毎月勉強会を行っている。外部の研修参加の為に、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加しているが、コロナの為に行けていない。隣のなごみの家との交流も中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネ、計画作成担当者が病院や施設等を訪問し、情報を得ている。また、本氏・家族からも意見や要望を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し要望や不安がないか聞くようになっている。本氏のバックグラウンドについても、センター方式の暮らしの情報を活用しご家族様に記入してもらい把握に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本氏・家族様に要望等聞いている為、入居時にはケアプランができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レベルに合わせ、洗濯物たたみや干し、配膳等スタッフと一緒にしてもらっている。壁面飾り付けも一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ガラス越しの面会時にご本人が日常で訴えてあることや思いを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、面会・外出などはお断りしている。	感染予防のため、家族や友人等と窓越しでの面会で、携帯電話を使用し、入居者が聞こえやすいように配慮している。家族や家族の許可を得た友人・知人がインターネットで入居者の写真等見ることが出来るよう工夫し、馴染み関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション・行事への声掛けを行い参加を促す。、座席を配慮してトラブル防止を行う。皆で話されているときは 見守る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆にはお参りさせていただき、家族様と話をし、その後の様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本氏に尋ねたり、日頃から日々の言動に留意し、意向の把握に努める。またご家族に聞いて希望に沿うように努めている。	家族から情報を得る他、入居者の言葉や表情、態度等から総合的に判断し、思いや意向の把握に努めており、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・後に家族様から情報を得られるように聞き取り、アセスメントの記入をしていただく。支援に繋げていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のバイタル・体調・言動・表情などの様子は日々スタッフが個別に記録し、“今”の把握に努める。できることはして頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフそれぞれの気づきを記録に残し、アセスメントの検討し、月1回の会議の時に意見を出し合い、話し合っている。必要時はDr・薬剤師にも相談している。	入居者の日頃の様子は担当者が記録し、共有している。本人や家族の意向を取り入れ、現状に即した介護計画が作成されており、モニタリングも適正に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他のスタッフの記録で情報を共有し、月1回の会議で話し合い、計画の作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際に、スタッフが付き添ったり、スタッフが家族様の代わりに送迎している。個別の外出支援はコロナのため、行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため、スタッフ以外との接触は控えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は古賀内科である。家族の了承の下に月1回の検査をして健康管理に努めている。異常の時は、往診依頼している。歯科・皮膚科の往診も希望・必要があれば依頼している。	かかりつけ医は本人や家族が自由に選択している。協力病院以外は家族が送迎しているが、状態の応じてホームが受診支援を行い、適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名在職している。気付きはすぐに報告している。24時間のオンコール体制をとっている。看護師はDr.に報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の状況の報告書(サマリー)を提供し、連携室(SW)と連絡を取り合っている。退院前には、SW・本人と面談し、情報を得ている。コロナのためできないことも多い		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に説明し、希望を伺い、疑問などには答え、納得されてから、契約を行っている。状態の変化に応じて説明し、その都度意向の確認を行っている。	かかりつけ医と連携し、看取りに対応している。入居時に説明を行う他、本人の状態に応じて繰り返し説明し、意向を確認している。ホームの看護師が24時間対応可能で、家族の付き添いも可能であり、看取り希望者多い。また、ホームとして年1回、ターミナルケアの勉強会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、バイタルチェック・臥床・看護師・Dr.報告し、指示を受けて対応している。研修を行っている。ひやり・ハツとを共有し、事故防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。運営推進委員会で、協力を頼んでいる。隣のなごみの家と合同訓練もしていたが、コロナで中止している。	年2回、全職員が参加して災害避難訓練を実施している他、敷地内の医院や他法人の高齢者施設とも、年に1回合同訓練を実施している。地震対策として、居室の家具等の固定など安全確保に努め、備蓄も準備している。しかし、家族や地域住民の参加が不十分である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を保てるような声掛けを心がけている。排泄の事等は他人居者には聞こえないように聞くなど配慮している。	職員は入居者の尊厳やプライバシーを損なわないように、言葉や態度等、全てに注意しながら日々の介護を行っている。入居者の記録は事務所に保管し、個人情報の管理も適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする前にはどうするか本人様に尋ねるようにしている。自己決定が難しい方は、生活歴や好みからその方に合ったほうを選択している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等の声掛けは行うが参加されるかは本氏に決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方でひげがいつでも剃れるように本人様のシェーバーを準備している。女性の方が誕生日の時は、化粧を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回おやつ作りを計画し、楽しんでもらっている。	入居者は、個々人が出来る範囲で食事の準備やおやつ作り等を職員と共に楽しみながら行っている。コロナ禍が終息した際は、レストランでの食事やドライブ時のおやつ等を再開する予定としており、ホーム内外問わず、食べる楽しみを継続出来るよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は外部に委託し、栄養バランスの取れた食事の提供が出来ている。常食での摂取が難しい場合は、ミキサー使用し刻んで食べやすいようにして提供している。食欲が減っている方は、家族様やスタッフで、食べれる物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った用具で口腔ケアを行っている。ホームでケアが難しい場合は、歯科と連携しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のパターンに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄ができるように支援している。トイレでは安全が確保できない方は、検討し家族様に説明した上で、ベット上での交換を行っている。	夜間は、ポータブルトイレやオムツを使用する入居者もいるが、排泄チェック表を活用し、入居者に合わせた声かけや誘導で、日中はトイレで排泄出来るよう支援している。排泄の自立に向けた取り組みを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を利用している。薬はNs.Dr.に相談、指示を受けて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、決めている。拒否されたりした場合は、時間を空けて再度声掛けを行っている。必要時は、ほかの方も入浴している。	脱衣所や浴室共、空間にゆとりがあり、広く清潔である。入浴時は温度差がないように配慮し、春には湯船の中から桜の花を楽しむ事もできる。基本は週3回の入浴だが、入居者の状況により、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡される方だけ昼食後は、1時間程度の休んで頂いている。就寝時間も特に決めてはおらず、眠たくなったら寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の先生を講師の研修を年1回行っている。情報の交換し共有するよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション時に得意な事を披露してもらったりしている。配膳や洗濯物たたみ等できることをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援の制度をとっているが、病院への付き添いが主である。	コロナ禍のため外出は控えているが、入居者は庭を自由に散歩できる。ホーム周辺の散歩やドライブ等は、感染状況が落ち着けば再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持の要望なく、今手持ち金をもってある方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からスタッフにかかってきた電話を本氏に意図的につないだり、手紙や贈り物が届くと本氏から電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽光が入るときはカーテンで遮り、室温ではエアコンが直接当たらないように風の向きに配慮している。毎月季節に合った壁紙を作成し、季節感を味わえるようにしている。	広く明るい室内にはBGMが流れており、清潔で穏やかな空間である。快適に過ごせるよう、温湿度計で空調を管理している。また、入居者が職員と作成した壁飾りや花が飾られており、明るい雰囲気であるとともに、陽当たりも良く落ち着いて過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は気が合う方を意図的にセッティングしている。1人が良い方には、1人用のソファ席を作り過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使い慣れた物を持って来ていただくようにしている。テレビ等の持ち込みも自由である。	入居者は、使い慣れた椅子や筆筒、思い出の写真や仏壇等を持ち込む事が出来る。家具の配置は、本人や家族の希望を基に、安全に配慮し決めており、安全で過ごしやすい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、キッチンや薬品等を入れて置くところには入れないようにバリケードやカギをかけ安全に務めている。		